



高橋教授の

この人に 会いたい

Vol.92

ゲスト

山本伸一

氏

一般社団法人日本作業療法士協会会長

医療、介護、福祉はもちろん、予防的な働きかけや社会復帰の支援、学校での教育支援など、幅広い役割を担う作業療法士(OT)。高齢化が加速するなか、住み慣れた場所で自分らしく生きたい人を支援するOTが活躍する領域はますます広がりをを見せている。一般社団法人日本作業療法士協会の山本伸一会長を迎え、OTのあるべき姿、取り巻く環境の現状と課題、今後求められる役割などについて論じ合った。

自分らしく生きるためのパートナー OTが「人生100年時代」を支える

応用的動作に焦点を当てる
「できない」を「できるように」

高橋 今回は日本作業療法士協会の山本会長と、高齢者の在宅復帰支援や今後の作業療法の方などについて論じたいと思います。よく指摘されますが、作業療法士(OT)と理学療法士(PT)の違いを十分に理解していない医師も多いようです。

山本 OTは1965年公布の理学療法士及び作業療法士法により誕生したりハビリテーション専門職です。ともに歩むことになった

ケア病棟推進協会会長)が理事長を務める石川県能美市の芳寿記念病院に金沢市の急性期病院から転院しました。入院初日に、OTの方から「できるだけ早く、お宅を拜見したい」と言われました。能美市から金沢市までの距離を考えれば、確実に半日は潰れます。コロナ以降、退院前訪問指導が普及してきましたが、当時はまだ珍しかったので、正直驚きました。

山本 リハビリテーションは生活の再建です。その方が発症後にどういう暮らしをしていくのか、どんな場所で、どんな方と一緒に過ごすのかといったことをOTがしっかりと評価し、入院生活にそれを組み込んでいくことが重要です。

最近では多くのリハ病院において、入院後早期に自宅を訪ね、住環境について玄関からの動線、寝室、お風呂、トイレなどの状況を調べるのが当たり前になってきました。

高橋 入院の翌々日、OTとMSWが、確かに金沢市内の義母宅を訪ねて来られました。

山本 私も自宅訪問指導を何度も

OTとPTは兄弟のような職種と言えるでしょう。「立つ、歩く、寝返る」など基本動作にかかわる理学療法に対し、作業療法は基本動作を使い、生活のなかに組み込んでいく役割で、応用的動作、言い換えれば社会適応能力に焦点を当てます。さまざまな道具を駆使し、身体機能や環境的な側面から、その方の「できない」を「できるようにする」支援にかかわります。

高橋 OTについては印象深い出来事があります。2017年に、骨折した義母がリハビリのため、私と旧知の仲井培雄先生(地域包括

経験しています。麻痺あり寝たきりになった患者さんが急性期から回復期に移り、とても自宅に帰れる状態ではないとき、「さあ、お宅を見せてください」と言っても家族はなかなか受け入れられません。「座ることも立つこともできないのに、なぜ家を見に来るのか」と叱責されたこともあります。それが将来的に患者さんに必要なことを丁寧に伝え、ご理解いただいています。

トイレ、風呂の訓練に 1時間かけることも

高橋 住まいの状況などを確認することによってアウトカムはどのようになり変りますか。

山本 今、何のためにこの訓練をしているかが明確となります。たとえば、玄関を入ったところにある段差の高さがわかれば、その段差を乗り越えるためにどんな訓練をすべきか、目標がはっきりします。目標ははっきりすれば、モチベーションも上がり、結果がついてきます。

高橋 訓練の時にモチベーションを

続きは、本誌4月号をご覧ください

撮影=関口宏紀